

Bunkamura シアターコクーン



所在地：東京都渋谷区道玄坂2-24-1
 延床面積：約8,118㎡
 総座席数：747席
 施主：東京急行電鉄株
 施設運用：株東急文化村
 改修施工：東芝エルティールエンジニアリング株
 改修完成：平成24年11月

S204

年間280万人もの人が訪れる東京・渋谷の大型複合文化施設、Bunkamura。そのなかで、日々さまざまな舞台芸術を生み出しているシアターコクーンが調光操作卓を改修。最新の舞台照明演出を可能にしています。

常に新しい舞台芸術を発信し続けるシアターコクーン

1989年、日本初の大型複合文化施設として誕生したBunkamuraはコンサートホール、劇場、美術館、映画館をはじめ、アート関連ショップやカフェなども充実し、「さまざまな文化を通して未来を創る複合文化施設」のテーマのもと、常に新しい文化・芸術を発信し続けています。なかでも、シアターコクーンは、演劇、コンサート、コンテンポラリーダンスをはじめとする、さまざまな舞台表現のための劇場として全国的に知られ、芸術監督制やシーズン制プログラム、コクーン歌舞伎など、時代に先駆けたクリエイティブな舞台を生み出し続けています。

可搬性に優れ、多様化した演目に対応可能なインテリジェント型調光操作卓

舞台照明の仕込み（調光・記憶）再生などを行い、客席照明の明転・暗転操作を行う調光操作卓は、既存品の老朽化が進み、10年が経過したことから、改修へと至りました。

新たに納入した調光操作卓には、より運用しやすくすることを意図して、ユニット分割式のLICSTAR-IV Type Sを採用。

既存品が大型の固定式タイプであったのに対して、コンソールがユニット分割され小型になったことで可搬性に優れ、多様化した演目に対応化できる仕様となっています。

また、必要なユニットのみ移動して使うなど、用途に合わせた構成を可能としており、さらにはユニットの配置を変えることで、操作面のレイアウトを操作する人や演目に合わせて構成することができます。そのほか、CPU二重化デュアルランニング方式を装備し、万一故障が発生した場合でも切り換えによって対応可能なシステムを構成しています。操作性の特徴としては、コンピューター制御によるメモリー再生方式を有する調光操作卓のほか、新規でワイヤレスを設けたことで仕込み時の効率が向上しています。また、メインの調光操作卓のほかに、同タイプのバックアップ用操作卓（フェーダー数20）も導入。サブマシンとしての使用のほか、公演内容によっては舞台袖での仕込み、調光操作を可能にしています。



更新した調光操作卓LICSTAR-IV Type S 1ユニット10kg以下で、1人での搬送も可能



調光室よりステージを望む



舞台側から客席を望む



バックアップ用操作卓



システム操作部



調光盤室のDIMSTAR-III

調光卓LICSTAR-IV (Type S) の主な仕様

最大調光回路数	2048
制御チャンネル	512CH×4系統 / 2048CH
記憶場面数	6場面+持込卓用2場面
記憶シーン数	2000シーン
サブマスターデータ	60本×20ページ×6バンク
再生方式	クロス、ムーブ(マルチキュー)再生方式